

## 科学研究費助成事業に採択された研究の結果報告

科学研究費助成事業に採択された研究のうち、平成23年度内に終了した研究結果について概要を紹介します。

### ドメスティック・バイオレンス被害女性のための シェルターの空間改善に関する研究

—— 上野 勝代(神戸女子大学家政学部 教授) ——

DV(家庭内暴力)に対しては、日本でもその深刻さが認識され、被害者支援が徐々に進んできています。しかし、被害者のシェルター空間については、遅れていると言わざるをえません。そこで、今後のモデルを考えるための先進例としてのデンマークで調査を行いました。その結果、デンマークに比べ日本では特に遅れている女性と子どものための空間と支援が、デンマークでは充実していることがわかりました。この成果は本の形で近く出版する予定です。



### カプサイシン、ジンゲロールによる 高血圧発症・進展予防とその機序

—— 栗原 伸公(神戸女子大学家政学部 教授) ——

神戸女子大学着任後、私は助手や大学院生たちと共に、唐辛子に含まれるカプサイシンや生姜に含まれるジンゲロールを血管内に一定量以上点滴静注すると血圧を上昇させるが、少量の場合血圧を低下させることを機序とともに示しました。それをもとに行った本研究では、その後輩となる院生たちが同じく非常に熱心に実験に取り組んでくれた結果、高血圧モデルラットがこれらを日常的に



少量ずつ摂取すると血圧上昇が抑制され、動脈硬化が緩和される可能性があることを示すことができました。

### 懐かしさを活用した支援

#### — 回想法の実践を通じた生きがいの追及 —

—— 津田 理恵子(神戸女子大学健康福祉学部 准教授) ——

特別養護老人ホームで入所生活を送っている認知症を患った高齢者に、大学の研究室で懐かしい記憶に働きかけ表出された思い出を傾聴・受容・共感する回想法スクールを10ヶ月間開催した結果、生きがい感、認知機能、日常生活動作が改善しました。

また、地域の元気高齢者に大学の研究室で、回想法スクールを開催し終了後も新たに形成された人間関係を活用し、社会参加につなげていくことができました。さらに、都市部と山間部で回想法の効果に差があるのか確認した



結果、居住環境に関わらず生きがい感が上昇することが確認できました。

### 方言文法の視点による

#### 推量表現の変化に関する基礎的研究

—— 橋本 礼子(神戸女子大学文学部 准教授) ——

日本語諸方言の推量表現には種々の形式がありますが、この4年間は古典の「らむ」に由来する形式をもつ新潟、島根(石見)、鹿児島、高知などの方言のうち、特に高知方言の「～ろう」を取り上げ、幕末ごろから現在までの用例の比較や話者への面接調査などによって、形式や意味・用法の変化の傾向を分析しました。こうした研究を通じて、推量表現という狭い範囲ではありますが、日本語の変化傾向を見極めたいと考えています。



※研究内容の詳細は独立行政法人日本学術振興会ホームページの科学研究費助成事業をご覧ください。



## 大学院情報(論文の概要)

### 平成23年度博士学位授与者 博士論文概要

平成24年3月15日(木)に渡部 典子氏に博士(日本史学)の学位が授与されました。

<課程博士> 渡部 典子(神戸女子大学大学院文学研究科 日本史学専攻へ提出 主査:川森 博司教授)  
論文題目「造り物行事の民俗学的研究 —法勝寺一式飾りの変容過程を中心に—」

本論文は、近世後期から現在に至るまでの造り物の変容過程と、伝承地域における造り物行事の継続理由を考察したものである。造り物研究には、二つの視点が生じていると考える。一つは、造り物の系譜を見出す視点、すなわち文化史的な考察である。そして、もう一つは、フィールドワークを重視する現場論的な考察である。

研究対象とした法勝寺一式飾りは、近世後期の造り物の系譜を見出すことができる造り物行事である。そこで、聞き取りと参与観察を主な調査方法とする現場論的な考察を主軸としながら、近世後期からの造り物の系譜が継続してきた理由と伝承過程で生じた変化を考察した。変化の面については高度経済成長期以降に注目し、担い手にとっての造り物行事の存在意義を明らかにした。つまり、継続と変化の両側面から造り物行事を考察することで、文化史的な考察と現場論的な考察の統合を試みた研究を行ったものである。



## 活躍する卒業生紹介

### 宮本 ひとみ氏 平成24年度の日本学術振興会 特別研究員(PD)に採用される



宮本ひとみ氏 博士(生活造形学)

平成22年3月に神戸女子大学大学院 家政学研究科 生活造形学専攻の博士後期課程を修了した宮本 ひとみ氏が、平成24年度の日本学術振興会 特別研究員(PD/採用区分で大学院博士課程修了者等を対象とする)に採用されました。

「特別研究員制度」とは、日本学術振興会が我が国トップクラスの優れた若手研究者に対して、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を図る制度です。

平成24年度は、農学領域 279件の申請の中から宮本氏の研究を含め43件が採用されました。

私の研究はセルロースに関するものです。セルロースとは、植物の細胞壁に存在する多糖で、地球上で最も多く生産されるバイオマス(注)です。デザートとして親しまれているナタデココもセルロースで構成されています。

私は、博士(生活造形学)を取得後、アメリカのニューヨーク州にあるコーネル大学(Cornell University Department of Food Science)にて博士研究員として2年間研究を行いました。アメリカでは、石油の枯渇問題に対して、セルロースからバイオエタノールを効率よく生産するという、アメリカ農務省を中心としたプロジェクトが行われています。私は、このチームの一員としてコンピュータシミュレーションを用いて、セルロースの構造を中心に研究を行いました。

平成24年4月より、日本学術振興会 特別研究員(PD)として採用され、横浜国立大学工学研究院にて「水酸化ナトリウム溶解法から再生したセルロースの新しい食材領域を目指した相互作用の解明とセルロースの構造制御の方法論」を明らかにするための研究を進めています。



データ解析を行う宮本氏

(注)生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、一般的には「再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」をバイオマスと呼ぶ。

#### 宮本氏の博士論文題目

『Structure and properties of cellulose blends prepared from aqueous sodium hydroxide solutions, and structural formation of cellulose from its solution』(水酸化ナトリウム水溶液から調製したセルロース複合体の構造と特性、及びセルロースの構造形成機構に関する研究)





## 古典芸能研究センター 新収文庫の紹介



神戸女子大学古典芸能研究センターは、この度、新たなコレクションを所蔵しました。

- 1 伊藤正義文庫
- 2 かしら文庫
- 3 志水(しすい)文庫

### 1. 伊藤正義文庫

平成22年3月に本学におさめられた伊藤正義文庫は、初代古典芸能研究センター長 故伊藤 正義本学名誉教授(平成4~15年度在職、平成21年12月2日没)の旧蔵書です。能楽研究および中世文学研究の第一人者であった旧蔵者が、生涯を通じて収集した書籍と資料は、能楽だけに留まらず、日本の中世という時代を見渡すことができる文学・思想・歴史などの資料も含まれています。

なお、この文庫に含まれる能狂言番組については、その一部を「古典芸能研究センター蔵能番組データベース」として昨年の春公開しました。



#### 伊藤正義文庫内容

- ・和本 約2,400冊 能狂言番組 約1,750枚
- ・洋装本 約4,500冊
- ・雑誌 約11,540冊
- ・展示図録 約570冊
- ・プログラム等上演資料 約550冊
- ・その他(複写資料(写真・フィルムを含む)・録音録画資料・調査資料)



### 2. かしら文庫

平成24年6月に本学におさめられたかしら文庫は、名古屋在住の人形芸能史研究所所長 加納 克己先生が収集された、日本各地の人形浄瑠璃や人形の首(かしら)に関する資料です。その多くは、人形に関する論文や報告書ですが、中には加納先生が撮影された人形の首の写真や映像などもあります。喜多文庫同様のデータベース構築に向けての作業をこれから進めていく予定です。

### 3. 志水(しすい)文庫

平成24年9月に本学におさめられた志水文庫は、本学名誉教授信多 純一先生(平成7~15年度在職)の旧蔵書です。近世演劇および近世文学研究の第一人者である旧蔵者が収集した書籍は、浄瑠璃・歌舞伎などの近世演劇関連書、狂歌本・狂歌短冊、仏書、神道仏教版画など幅広い内容を持ち、この志水文庫にしか現存しないような貴重な本が多く含まれています。現在は、一日も早くその全容を示す事ができるように整理を進めているところです。



#### 志水文庫内容

- ・和本 約2,600点
- ・洋装本 約5,200冊
- ・雑誌 約3,900冊
- ・展示図録 約650冊
- ・プログラム等上演資料 約120冊
- ・その他(複写資料(写真・フィルムを含む)・録音録画資料・調査資料・人形等)



## 新収文庫公開事業

神戸女子大学古典芸能研究センターでは、新収文庫の公開を記念してさまざまな催しを行いました。

### 2012年第3回常設展

#### かしら文庫・志水文庫の人形

期間：2012年9月10日(月)～12月28日(金)

場所：古典芸能研究センター閲覧室内

「かしら文庫」と「志水文庫」から、珍しい一人遣いの人形や海外の人形劇に使われた人形とその周辺資料を展示しました。



### 古典芸能研究センター稀書展示

#### —伊藤正義文庫・志水文庫を中心に—

期間：2012年11月19日(月)～12月2日(日)

場所：神戸女子大学教育センター5階 第2講義室

「伊藤正義文庫」からは能楽関係や中世文学の貴重書を、「志水文庫」からは浄瑠璃・歌舞伎関係資料や狂歌本などの貴重書を展示しました。



### オープンカレッジ秋期講座

#### 古典芸能研究センター「かしら文庫」

#### 新収記念特別講座

#### 「日本の人形浄瑠璃」

期間：2012年11月5日～12月17日(毎週月曜全7回)

場所：神戸女子大学教育センター5階 特別講義室

- 人形浄瑠璃の特色と魅力  
山田 和人(同志社大学教授)
- 今に残る各地の古浄瑠璃系人形  
和田 修(早稲田大学准教授)
- 人形かしら研究の最前線  
——かしらと画証  
加納 克己(人形芸能史研究所所長)
- 人形浄瑠璃文楽の現状  
桜井 弘(国立文楽劇場支配人)
- 人形浄瑠璃の成立——能操りから浄瑠璃操りへ  
横 記代美(神戸女子大学大学院研究生)
- 人形浄瑠璃の展開——古浄瑠璃から近松へ  
川端 咲子(神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員)
- 人形浄瑠璃のドラマ作法——「戻し」の趣向  
阪口 弘之(神戸女子大学古典芸能研究センター長)



日本の人形浄瑠璃の魅力や、歴史・芸態の拡がり・作品内容などにわたって、多彩な講師陣に縦横に語ってもらいました。

### 稀書展示記念講演

日時：2012年11月23日(金) 13時半～16時半

場所：神戸女子大学教育センター5階 特別講義室

- 「清盛物語」の構想  
阪口 弘之(神戸女子大学古典芸能研究センター長)
- 江戸文化再考  
中野 三敏(九州大学名誉教授)
- 近松研究の限界  
鳥越 文蔵(早稲田大学名誉教授、元早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長)

稀書展示に併せて開催された講演会では、信多先生に親交の深い先生方による三者三様の講演があり、参加者からも好評を得ることができました。







## 国際交流

### 交流年表

(協定校等)

1983年	ハワイ大学(米国)	2007年	チェンデラワシ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(英国)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1997年	フライブルク大学(独国)	2010年	西安工程大学(中国)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2006年	ガジャマダ大学(インドネシア)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	ピッツァー大学(米国)	2011年	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校(米国)
		2012年	アイルランガ大学(インドネシア)

## オックスブリッジ英語サマースクール2012

オックスフォード大学及びケンブリッジ大学の学生が組織するOxbridge Summer Camps Abroad(OSCA)の学生2名を講師としたオックスブリッジ英語サマースクールが2012年7月23日(月)～8月4日(土)に須磨キャンパスで実施されました。今年度はケンブリッジ大学からドミニク・ジャクソン コール(Dominik Jackson-Cole)さんとフィリッパ・ベインズ(Philippa Baines)さんを迎え、神戸女子大学の学生21名が参加しました。

授業は全て英語で行われました。2名の講師は日常生活に密着した話題を教材に取り入れ、ファッションショーや学生自ら作ったストーリーを演じて映像におさめるといった実技を伴う授業など、英語を使いながら楽しく学べるように工夫してくださいました。

また、授業以外でも須磨海浜水族園や花火大会に学生たちと一緒に出かけ、交流を深めました。

参加学生からは、もっと授業を受けたかったという声が多く、大変好評でした。



ドミニクさんは得意のサルサを学生に指導しました



天候を話題にしたドミニクさんの授業の様子



コミュニケーションが弾むように対面形式でのフィリッパさんの授業

## 留学生紹介

個人情報のためWEBでは掲載しておりません。



## オレロップ体育アカデミー留学報告 デンマーク王国より

神戸女子大学文学部 教育学科の4年生の新家 綾さんが、2012年8月12日～12月16日までの間、デンマーク王国スヴェンボー市のオレロップ体育アカデミーに奨学生として留学しました。

このスカラシップ(奨学金)は、2010年10月に同校のデンマーク体操のエリートチームが演技発表及び体験講習会で神戸女子大学を訪れた際にウフェ・ストランディ(Uffe Strandby)校長が波田 重熙学長に申し出られたものです。

奨学生に選ばれた新家さんは、3歳からクラシックバレエを習い、大学生になるとデンマーク体操部にも入部し、身体表現活動を今日まで続けてきました。デンマークへの研修旅行にも2回参加しました。初めての研修旅行の時に、本場のデンマーク体操のレベルの高さを実感し、さらに高度で幅広い技術を身につけたいという思いがありました。この度、夢がかなって留学することができました。

新家さんは、卒業論文のテーマにダンス教育の必要性とその手法について研究することにしていました。ダンス教育は、体力と自己表現力の向上に加えコミュニケーション能力の向上にも有効であると捉え、デンマーク体操は舞踊と区別しがたいことから、オレロップ体育アカデミーでのダンス教育の位置づけ、デンマークの社会システムの中での身体活動の実情について調査ができました。

授業では、様々な国籍の学生と一緒にモダンダンス、バレエ、ヒップホップのレッスンを通して、コミュニケーションのとり方や自己表現の大切さを学び、自分たちの創作作品を地域や学校の仲間の前で発表しました。また、インターナショナル・ディのワークショップではデンマーク人の友達に日本語を教える機会もいただくなど、大変充実した留学期間が送れました。

約4ヶ月間のデンマークでの生活は、新家さんにとって自分の思考を相手に伝えるためのトータルな手法を身につけ、デンマークの文化にも触れることができた貴重な留学体験となりました。



オレロップ体育アカデミーの中庭



デンマーク体操部顧問、卒業論文指導教員の青山美津子教授と奨学生採用通知を持つ笑顔の新家綾さん



授業風景



平仮名で名前を書いてもらったワークショップ



Odenseにて他の留学生と記念撮影

※オレロップ体育アカデミー：フン島南部のスヴェンボーにある体育系フォルケホイスコーレ(高等国民学校)の伝統校。ニルス・ブック(Niels Bukh)が1920年に設立した。